

## 巻頭によせて



校長 北村 聡

Kitamura Satoshi

福沢諭吉は著書『福翁百話』の中で、「水清ければ魚なし、人智明なれば友なし」というております。あまりに水が清潔であると、魚は身を隠す場所がなくなって、やがてそこでは生息できなくなる。人もあまりに洞察力が強いと、周囲の人は身の置き所がなくなり、やがて友がいなくなってしまうという意味です。

欠点のない人などありません。自分では自分が全く正しく、欠点のない優れた人間であるという考えでいると、やがて周囲の人々の失敗や欠点が許せなくなり、その結果誰もその人に近づかなくなります。自分や周囲の人の欠点も認めた上で、お互いに少しでもそれを直し、励まし合い、助け合って生きてゆきたいものです。

一体世の中に、善人といい、また善人と自負しているものが本当の善人でありましょうか。「我はよし」と考える人は、他人が悪いのであるという云わば「善人誇り」を持っているのではないか、人間に要請されるものは徹底的な自己の掘り下げによる「我は悪し」と感ずる自己嫌悪の心ではないかと、あらためて感じるのですが、いかがでしょうか。